# ごみのこと

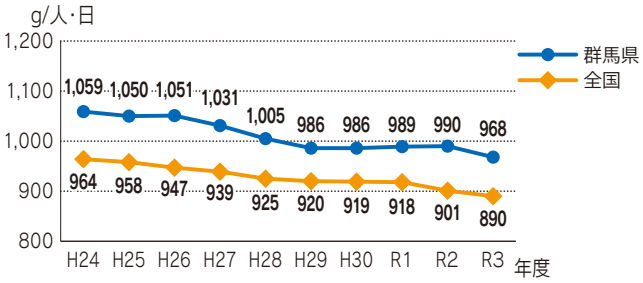
## ●ぐんまではどれくらいごみが出ているの？

わたしたちの家庭から出る生ごみやびん、缶、ペットボトルなどが、令和３年度は群馬県全体で約68万８千トン発生しました。県民１人１日あたりでは、968グラムになります（全国平均：890グラム）。

また、出されたごみのうち古紙や古着、空き缶など資源ごみとしてリサイクルされたものの割合は14.5%です（全国平均：19.9%）。

リサイクルできずに燃やされたごみの内訳では、紙・布類が約33%と最も多く、次に生ごみが32%、ビニール等が17%です。

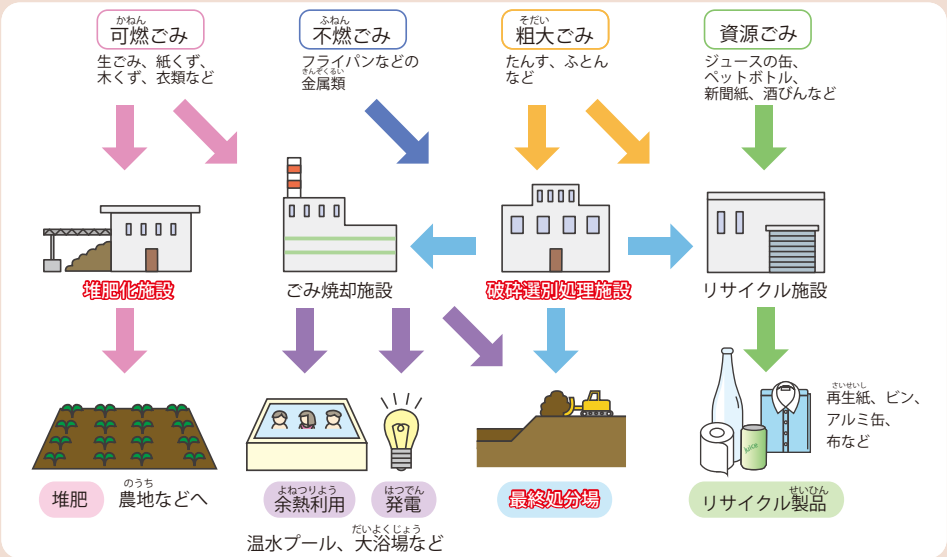
### ●１人１日あたりのごみ排出量の推移




## ●ごみのゆくえ

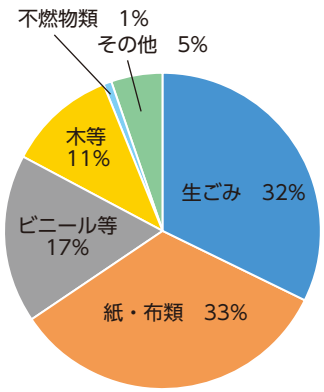
わたしたちが毎日出すごみは、市町村が収集し、種類ごとに処理されています。

ごみを分別して出すことで、資源としてリサイクルできる割合が増え、燃やすごみや最終処分場で埋め立て処分するごみを減らすことができます。




### ●燃やされたごみの内訳

（令和3年度）




## ことばの説明

★**堆肥化施設**（たいひかしせつ）

燃やせるごみのうち、生ごみなどを燃やさずにリサイクルして、植物の肥料をつくる工場のこと。

★**破砕選別処理施設**（はさいせんべつしょりしせつ）

粗大ごみを細かく砕いて、リサイクルできる金属類や燃やせる木材などを機械や人の手で分別する工場のこと。

★**最終処分場**（さいしゅうしょぶんじょう）

ごみ焼却施設から出る灰のほか、リサイクルできないごみや燃やせないごみなどを埋め立てる場所のこと。

## ●循環型社会ってなに？

わたしたちは、たくさんの資源を使ってものをつくり、ごみを出しています。しかし、天然資源には限りがあり、ごみを最終的に埋め立てる場所も多くはありません。そこで、資源を繰り返し利用してごみを減らし、なるべく新しい資源を使わない「循環型社会」を目指す必要があります。

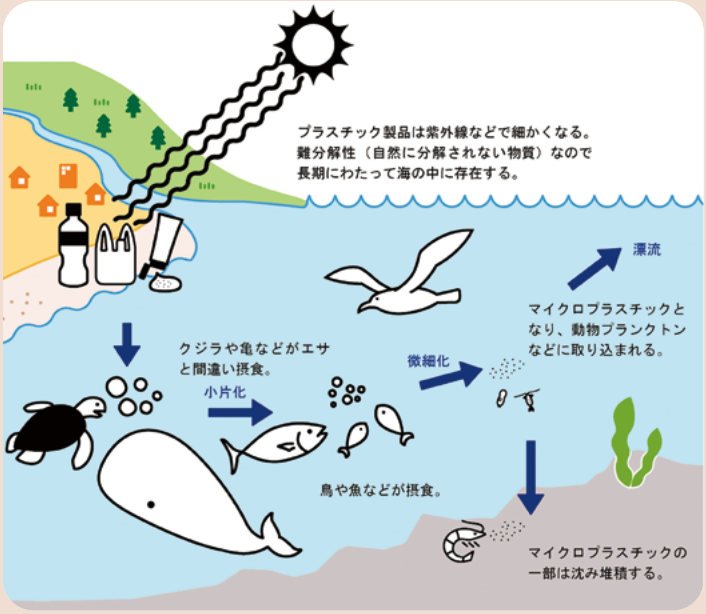
## ●プラスチックごみ問題ってなに？

プラスチックは軽くてじょうぶ、好きな形に加工でき、安く生産できるため、とても便利な素材です。身の回りにはレジ袋やペットボトルなどたくさんのプラスチック製品であふれています。

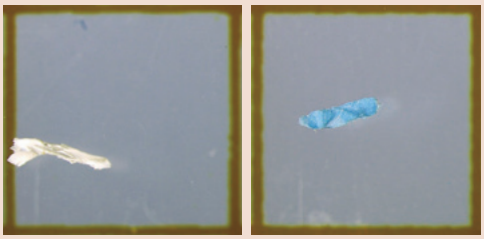
その一方で、プラスチックごみが海や川に流れ出ると、自然には分解されず、半永久的に残り続けてしまいます。

プラスチックごみの中には、波や紫外線の影響で細かく砕けた物や、歯磨き粉などに含まれていることもあるスクラブなど、「マイクロプラスチック」と呼ばれるとても小さなものもあります。

マイクロプラスチックは、海を漂う様々な有害物質が付きやすく、これを魚などがエサと間違えて食べ、その魚を食べた人間の体にも取り込まれると、健康に悪影響が出る可能性が心配されています。




出典：環境省　海洋ごみ学習用教材



県内の河川で見つかったマイクロプラスチック

海洋プラスチックごみには、海から遠い内陸地域から、川の流れに乗って海に運ばれるものもあります。実際に、群馬県の川でもマイクロプラスチックが確認されています。

群馬県では、小学生にこの問題について学んでもらうため、令和５年度に「マイクロプラスチック調査体験ツアー」を行いました。ツアーでは、利根川の上流、中流、河口近くの海岸で散乱ごみとマイクロプラスチックの調査を体験し、拾ったごみを使ってプラごみアートを作成しました。

海のない群馬県でも、海洋プラスチックごみ問題を自分たちのこととして考え、一人ひとりができることに取り組むことが大切です。

プラスチックは石油などの化石燃料が原料で、ごみとして燃やされると二酸化炭素を出します。

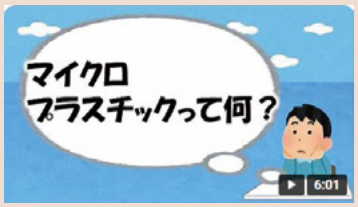
これ以上プラスチックごみによって環境を悪化させないためにも、５Ｒ活動に取り組むことがわたしたちにできる行動の一つです。

マイクロプラスチック調査体験ツアーの様子

## tsulunos動画

★マイクロプラスチックって何？

海洋プラスチックごみ問題やマイクロプラスチックについて説明しています。マイクロプラスチックの調査方法も紹介しているので、ぜひ見てください。




## ●5R（3R+リフューズ、リスペクト）に取り組もう！

**1　Reduce（リデュース＝ごみを減らす）**

- ●買い物をする前に、本当に必要なのか考えてから買う
- ●レジ袋を買わない
- ●壊れにくく、長く使える製品を買う
- ●包み紙などの包装はできるだけ少なくする

**2　Reuse（リユース＝くりかえし使う）**

- ●紙コップではなく、洗ってくりかえし使える容器やマイはしを使う
- ●つめかえ用の製品を使う

**3　Recycle（リサイクル＝再生利用する）**

- ●ごみはきちんと分別して、リサイクルしやすくする
- ●リサイクルされた製品を買う

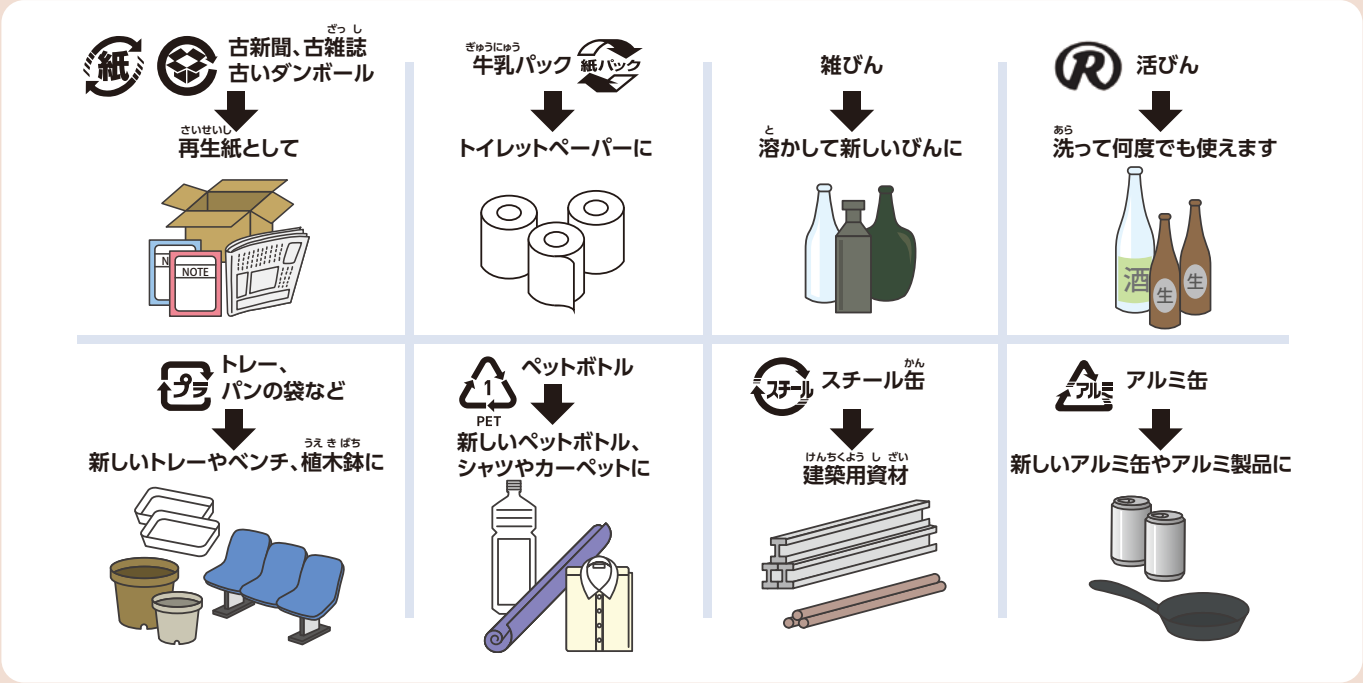
**4　Refuse（リフューズ＝不要なものを買わない、受け取りを断る）**

- ●マイバッグを使う
- ●使い捨てプラスチック製品（フォーク、スプーン等）を断る

**5　Respect（リスペクト＝大切に長く使う）**

- ●いらなくなったものは、フリーマーケットやリサイクルショップに出す
- ●壊れたものを、修理してまた使う

## ●分別した資源はどんなものに再生利用されるのだろう？




※表示識別マークは環境省ホームページより引用

## ●環境への負荷が少ない製品を買おう

買い物のときに、まず必要かどうかを考えて、必要なときは環境のことを考えて、環境負荷ができるだけ小さいものを買うことを「グリーン購入」といいます。買い物をするときには、右に紹介するようなマークをチェックして、環境にやさしい買い物「グリーン購入」を心がけましょう。

◎エコマーク
環境への負担が少ない製品を示します。
〈主な表示製品〉
文房具や日用品など

◎PETボトルリサイクル推奨マーク
ペットボトルのリサイクル品を使った製品を示します。
〈主な表示製品〉
文房具やTシャツ

◎再生紙使用マーク
再生紙を作る時に、古紙パルプがどのくらい含まれているかがわかります。
〈主な表示製品〉
ノートなど紙の製品

このほかにもたくさんのマークがあります。お店でチェックしてみましょう。

## ●食品ロスってなに？

食べ残し、売れ残りや賞味期限切れなど様々な理由で、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品のことを「食品ロス」と言います。日本では年間約523万トン（毎日、大型トラック（10トン車）約1,433台分）の「食品ロス」が発生しています。

大量の食品ロスが発生することにより、次のような様々な影響や問題があります。

①食品ロスを含め多くのごみが捨てられるため、ごみ処理にたくさんの費用がかかります。

②捨てられた食品を可燃ごみとして燃やすことで、二酸化炭素の排出や焼却後の灰の埋め立てなどにより、環境に負荷がかかります。

③日本は食料の多くを輸入に頼る一方で、その多くを食べずに捨てている中、7人に1人の子どもが貧困で食事に困っている状況です。余っている食品が、困っている人に有効に利用されずに、無駄にされています。

こうした様々な問題を解決するためには、わたしたち一人ひとりが食べものを無駄なく、もっと大切に消費する必要があります。

### ○MOTTAINAIの心で、食品ロス削減に取り組もう！

食品ロスの削減の基本は、買い物のときに「買いすぎない」、料理のときに「作りすぎない」、外食するときに「注文しすぎない」、そして「食べきる」ことが重要です。

身近なところから食品ロスを減らすヒントを紹介します。

#### 1　買い物のとき

・買い物の前に冷蔵庫の中身を確認する。
・食べきれないほどの食材を買わない。
・すぐ食べる食品は、賞味期限や消費期限の長い商品を選ぶのではなく、手前から買う。

#### 2　料理のとき

・食べられる分だけ作り、作りすぎない。
・作りすぎてしまったり、食材が余ったときは、リメイクレシピなどで食べきる。

賞味期限が近い食品や家庭で余りがちな食品を上手に使い切り、無駄なくおいしく食べきることをコンセプトにした「MOTTAINAIクッキング」を動画で紹介しています。

#### 3　外食するとき

・食べきれる量だけ注文し、注文しすぎない。
・どうしても食べきれない場合は、お店の方に持ち帰りできるか確認する。

群馬県では、料理の小盛りや値引き販売等を行い食品ロス削減に取り組む飲食店やスーパー等を「食べきり協力店」として登録し、紹介しています。

## ごみのことについて、もっと知りたい人のために…

### ■インターネットで調べてみよう

★群馬県の廃棄物PDF版＜https://www.pref.gunma.jp/site/sanpai/131370.html＞
群馬県内の廃棄物処理に関する情報をのせています。

★NPO生ごみリサイクル全国ネットワーク
＜http://www.namagomi-rz.sakura.ne.jp/index.shtml＞
生ごみのリサイクルに関する取り組みを紹介しています。

★日本容器包装リサイクル協会＜https://www.jcpra.or.jp/＞
缶、ビン、ペットボトルなどのリサイクルに関する情報をのせています。

★一般社団法人パソコン3R推進協会＜https://www.pc3r.jp/＞
家庭から出されたパソコンのリサイクルに関する取り組みを紹介しています。

### ■行ってみよう

★各市町村清掃センター
多くの清掃センターでは、あらかじめ申し込むことで施設を見学できます。

## 学校での取り組み　高崎市立倉渕中学校

倉渕中学校では、「持続可能な未来や社会を構築するために行動できる人材の育成～持続可能な開発のためのＥＳＤ教育を通して～」をテーマとして、環境の保護や保全の視点から、森林体験学習やミヤマシジミの保護、フードドライブなどのＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）活動に取り組んでいます。

森林体験学習では、林野庁の森林技術指導官の指導のもと、森林のはたらきや森林にすむ動物たちの生態について学び、学校林において、実際に枝打ちや間伐の作業をしたりするなどの体験学習を行っています。ミヤマシジミ保護活動では、地域の公民館で開催される学習会において、県内でただ一つの生息地である自分たちの地域の自然環境について学び、ミヤマシジミが命を保ち生活するために欠かせない植物である、コマツナギの群落地の環境を整備する作業に取り組んでいます。

ミヤマシジミ

家庭などで余っている食品を持ち寄り、それらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付するフードドライブ活動では、ＳＤＧｓの視点に立った様々な取り組みを、保護者や生活協同組合と連携して行っています。

これらの活動を通して、生徒たちは豊かな環境を守ることや食品ロスをなくすことへの関心を高め、人やものを含めた環境問題に対する考えを深めています。これからも、活動を地域住民に広める工夫をしながら、人と社会の成長につながる新たな価値をつくり出す取り組みを続けていきたいと考えています。